

今朝も皆さまとともに主を礼拝できますこと、感謝します。7月も最後の主日を迎えました。もう7月とは思えないほど暑さの中ですが、皆さまのご健康の守りのため、続けてお祈りしています。今朝も月1回の機会として、今年の年間聖句を覚えてともにみことばに聞いてまいりたいと思います。まずはいつものように、今年の年間聖句をともにお読みしましょう。

あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。

今年の年間聖句は詩篇119篇ですが、この詩篇は150ある詩篇の中で最も長い詩篇として知られています。この聖句ですでに105節というあまり見たことのない数字ですし、全体は176節あります。詩篇だけではなく、聖書全体の中でも最も長い章となっています。この詩篇119篇は全体を通して、神さまのみことばへの信頼とみことばに聞き従う幸いを語り教えるものとなっています。この詩篇119篇はこんな言葉で始まります。1節と2節。

幸いなことよ 全き道を行く人々 主のみおしえに歩む人々。

幸いなことよ 主のさとしを守り 心を尽くして主を求める人々。

主のみおしえ、すなわち聖書の教えに歩みそれを守る人の幸いをこの詩篇は歌っています。そして年間聖句の105節「あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。」という言葉の少し後の112節にはこうあります。

私は あなたのおきてを行うことに心を傾けます。いつまでも 終わりまでも。

あなたのおきて、神さまのみことばを行うことに心を傾け、いつまでもみことばに従い続ける。そんな詩人の信仰の告白がここでなされています。みことばを足のともしび、道の光として歩むことは、神さまのみことばにいつも聞き従い、神さまの示してくださる光を頼りに生きること。聖書の教えを守りそれを実行することである。そのことをともに私たちは覚えていたいと思います。先月もみことばを行うことを人生の土台とすることを、イエスさまのみことばから教えられました。イエスさまはみことばを聞いてそれを行う歩みこそ、揺るがないものであると教えておられます。今日もまたこのみことばを行う、ということについてともに考えてまいりたいと思います。今日読まれたみことばは、イエスさまの兄弟ヤコブが書いたと言われる、ヤコブの手紙です。今朝のみことばは聖書の中でも最も厳しいみことばの一つであると私は思っています。

みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となっ

みことばを行う人になりなさい。とてもシンプルですが鋭く私たちの心を探るみことばです。聖書の言葉をただ読むだけ聞くだけでなく、それを覚えるだけでなく、行っていく。みことばを行うことを大切に

心に植え付けられたみことば

この言葉の意味の理解を深めるため、前後も含めて読んでみたいと思います。21節と22節。

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となっ

ヤコブはここで、心に植え付けられたみことばを素直に受け入れなさいと語っていました。神さまは私たちの心にみことばを植え付けてくださいます。日々の礼拝や諸集会、そして毎日のディボーションを通して神さまが私たちの心に植え付けてくださるみことば。それを素直に受け入れることをヤコブは私たちに勧めるのです。みことばを素直に受け入れる。聖書が語っていることに真摯に耳を傾け、神さまからの語りかけを素直に受け取る。それが聖書の教える大切なみことばの聴き方です。

そしてそのように素直に聞いた言葉を行うこと。実践すること。その大切さを聖書は私たちに教えています。ヤコブはみことばを行わない人のことを「自分を欺いて、ただ聞くだけの者」とここで表現しています。みことばを行わないことは自分を欺いていることだと。どういうことでしょうか？聖書が語られる時、少なからず私たちに問いかけることがあります。私たちの良心に問いかけ、このままではいけないと、そのように示されることがあると思います。それを無視して、聞かなかったことにして、みことばに従わない。それをここでヤコブは「自分を欺く」と表現しているのだということです。そのようであってはならない。みことばを聞いても何も感じない、ということも時にはあるかもしれません。しかし神さまはいつも私たちの心に問いかけておられる。このままでいいのか？あなたはそれでいいのか？そう問われ気付かされることが私たちには必ずあると思うのです。私自身も聖書のみことばを通して、自分の犯している罪に気付かされたり、相手への配慮を欠いていることをに気付かされたりして、悔い改めさせられることがよくあります。自分が取り組まなければならないこと、行動しなくちゃいけないことを示されることも

ある。そこで自分を偽ってしまうのではなく、聞かなかったことにするのではなく、みことばに問われ教えられたならば、それをちゃんと行うこと。実行に移すことを私たちは大事にしたいと思うのです。

さらに23節から25節。

みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです。

眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れてしまいます。

しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。

ここではみことばを聞いて行わない人を行う人の対比が語られています。みことばを聞いても行わない人は、自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようであると。鏡に映る自分の姿。それはどれほど素敵であったとしても、その姿は鏡の前から離れると消えてしまいます。そしてしばらくするとそれがどのようであったか忘れてしまう。そのようにみことばを実行しない人は、聖書が語っていることをすぐに忘れてしまう。どんなにみことばに教えられ感動したとしても、それを実行しようとしなければ、それは鏡の前の姿のようにその人の中であっけなく消えてしまい忘れられてしまう。何も残らない。そうヤコブは語っているということです。

逆にみことばを実行する人はみことばから離れない人であると。みことばから離れずそれを心に刻み見定め、忘れずに実行する。そのような人を神さまは喜び祝福してくださるのだとヤコブは言います。私たちに神さまがいつも語ってくださるみことば。私たちの心に神さまが植え付けてくださるみことばを私たちは素直に受け入れ信じ、そしてみことばに従っていく者でありたい。聖書の教えを実践しみことばを行っていく。そのような私たち八千代聖書教会とますますさせていただきたいと思います。

自由をもたらす律法

そしてこのみことばに従いみことばを行うことは、私たちに自由と本当の幸いを与えるものである。そのことを私たちは今朝ともに覚えたいと思います。聖書はそして神さまは、私たちを縛りつけたり不自由にさせたりするためにみことばを行うよう命じておられるのではありません。むしろその逆です。私たちの自由と幸福のために、みことばを行うことが大事なのということです。ヤコブは今日の25節で聖書のみことばを「自由をもたらす完全な律法」と表現していました。自由をもたらす完全な律法。みことばの教えは、私たちに自由をもたらすものだと、そう聖書は教えているということです。私たちはみことばを行いなさいとか、聖書の教えを実践しましょうということを聞くと、そこに何か窮屈さや不自由さを感じてしまうかもしれません。行いによらずに恵みによって救われると聖書は言っているのに、結局は行いが求められているのかと思う方もおられるでしょうか。しかし聖書は、私たちが神さまの教えに従うことは私たちのためなのだと。みことばを行う生き方こそ、真に自由で幸福な生き方なのだと教えているのです。

イエスさまはかつてこのように言われました。ヨハネの福音書8章31-32節。

イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」

あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

真理はあなたがたを自由にします。イエス・キリストの福音は私たちを自由にする。罪の奴隷であった私たちをイエスさまは十字架により贖い救い出してくださいました。そして罪から解放され自由にされた私たちは、みことばに従うことを通してこの自由の中を生きるのだと、イエスさまは教えておられます。イエスさまのみことばにとどまる時、私たちは真理を知り自由にされていく。みことばにとどまりみことばに従うことの大切さと、そこにある大きな祝福をイエスさまは語ってくださったのです。

私は小さい頃から教会に通っていて、親もクリスチャンですので何かあると聖書にこう書いてあるとか、みことばはこう言っているのだからこうしなさい、あれをしてはならない、と言われることがありました。小さい頃は割と素直に従っていたと思いますが中高生くらいになるとそう言ったことが疎ましく感じられ、聖書に従うこと、イエスさまを信じて生きることどこか不自由さを覚えることが多々あったように思います。しかしある時、私は先ほどのイエスさまのみことばに出会いました。「真理はあなたがたを自由にします」イエスさまを信じる道、イエスさまに信頼し従う道は決して不自由なものではない。むしろ本当の自由を私に与えてくれるのだ。そのことに気づいて、私の信仰の歩みは変えられたと思っています。このみことばは今も私が好きなみことば、大切にしたいみことばの一つです。もちろん未だに納得できないこと、よく理解できないことも聖書の中にはあります。これのどこが自由につながるのかと理解できないこともありますし、従いたいけれど従いきれない、そんな弱さも私のうちにはあります。みこ

とばに従うことの難しさ、そこにある葛藤を思うのです。けれどもみことばに従う道を神さまはいつも備えてくださって、聖霊を通して私を支え励ましていてくださる。教会の交わりを通して、ともに聖書を読み考える神の家族の存在を通して、私は守られ導かれている。そんなことを感じています。

聖書が私たちに教えていることは私たちの幸せのためである。私たちが人間らしく、また自分らしく自由に生きるための生き方がそこには記されている。先ほど読んだ1章21節にはこうありました。

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

すべての汚れやあふれる悪を捨て去って、みことばに従うことが命じられていました。誰も汚れや悪の中を生きたいとは思わない。できるかどうかは別として、きよく正しく生きていたい。それが私たち人間の本来の姿であると思います。またその直前にはこんなことが書かれています。19-20節。

私の愛する兄弟たち、このことをわきまえていなさい。人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい。

人の怒りは神の義を実現しないのです。

怒るのに遅いということ。これは神さまご自身のご性質でもあります。今木曜日の祈祷会で読んでいる詩篇などには、この怒るのに遅い神さまの恵みと憐れみが記されています。先日も神さまは怒るのに遅いというみことばから、なかなかそのようには生きられない私たちの弱さや、そこにある現実を分かち合いました。私たちは怒るのに遅くありたい。すぐに怒らず、相手を赦し受け入れる人でありたい。怒りや憎しみの感情から解放されて、自由に愛を持って生きてきたい。誰もがそう思っているのではないのでしょうか。聖書は、このみことばに従う道こそ、私たちに自由をもたらす道であると教えるのです。みことばに従う道を教えてくださり、聖霊によって私たちを励まし導いてくださる神さま。教会の交わりを通して、互いの存在を通してともに成長させてくださる神さまの恵みに私たちはいつも目を留めていたいと思います。

今日はこの後、シェアリングタイムを行います。みことばの恵みを分かち合うこと、素直な感想や率直な気持ちを話し合うことも、このみことばを行うために大切なことであると思います。神さまが私たちに与えてくださっている恵みを分かち合い、またそこに従いきれない自分の弱さや葛藤を素直に分かち合いながら、弱く罪深い私たちに働いていてくださる神さまをともに見上げていく。そんな交わりをこれからも続けていきたいと願っています。

みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってははいけません。

神さまが私たちの自由と幸いのため与えてくださったみことばの命令、神さまからのチャレンジに今朝私たちはともに向き合う者でありたいと思います。日々の歩みを通して神さまのみことばに従いそれを実践することを大事にしていきましょう。イエスさまの十字架により罪赦され自由にされた者として、心からの喜びと感謝のうちにみことばを行う道を今週も歩ませていただきたいと思います。

お祈りをいたします。「天のお父さま。みことばを行う人になりなさい。シンプルでしかしとても難しく厳しいみことばを今朝はともに聴きました。あなたに赦され自由にされながらも、依然として古い罪の性質から自由になれない、そんな私たち私であることを思います。しかしどんな時も変わらず私たちを愛していてくださる神さまが、今日もみことばをもって私たちを励ましていてくださること。聖霊なる神さまの働きと、教会の交わりを通して私たちにみことばを行う道を示していてくださることを覚え感謝いたします。私たち八千代聖書教会が、あなたのみことばを素直に受け入れそれに心から聞き従う教会となることができますよう、続けて導いていてください。あなたのみことばに従う時与えられる自由と幸い、平安を味わいながらこの地の歩みを忠実に誠実に進むことができますように。あなたの恵みに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」